

平成 2 8 年度

岡山大学大学院法務研究科

法学未修者入試 A 日程

小論文問題

- ・ 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- ・ 解答は解答用紙に横書きで記入してください。
- ・ 問題冊子は、この表紙を含めて合計 7 枚あります。
- ・ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください（解答用紙は解答の有無にかかわらず、必ずすべて提出してください）。

問題 以下の文章を読んで、次の2つの設問に解答しなさい。

【設問1】

文章の下線部A（p6）「ルソーの展開した、少数派が多数決の結果に従う正当性の根拠」を600字以内でまとめなさい。

【設問2】

文章の下線部B（p6）からすれば、「投票の対象にはならない」はずなのに、実際には多数決で決められている事柄がありそうである。そのような事柄のうち、文章中に例示されている少数民族の排除や性的少数派の抑圧とは別の具体例を挙げ、筆者の見解を踏まえつつ、多数決による侵害の可能性をどうやって抑え込んだらよいか、あなたの考えを1000字以内で論じなさい。

[文章]

出典：坂井豊貴『多数決を疑う 社会的選択理論とは何か』（岩波新書・2015年）71頁以下（なお、出題の都合上、文章の一部を省略・加工している。）

【出題意図】

特定のテーマについて書かれた問題文を読み、その内容を的確に理解できる能力をみるとともに、提示された設問に対する自己の見解を論理的かつ説得的に論述できる能力をはかることが、出題の意図である。